

令和 6（2024）年度 資源評価調査状況報告書（拡大種）

シイラ太平洋中・南部

対象水域	太平洋中・南部	参画機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、千葉県水産総合研究センター、神奈川県水産技術センター、静岡県水産・海洋技術研究所、三重県水産研究所、和歌山県水産試験場、徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課、高知県水産試験場、大分県農林水産研究指導センター水産研究部、宮崎県水産試験場
------	---------	-------	--

- ・ 令和 5 年度資源評価調査報告書を公表済み（https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/trends_2023_153.pdf）、次回令和 7 年度を予定

(1) 調査の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・ 機構は生物情報収集調査を実施 ・ 各県は漁獲統計調査を実施 ・ 参考情報として宮崎県が2023年に行った本種の資源評価結果を利用 ・ 本年度は資源評価調査報告書の作成は行わず、漁獲統計量の更新を実施
--

(2) データ収集状況

<ul style="list-style-type: none"> ・ 千葉県では2000～2023年の主要漁協別漁獲量を収集済み ・ 神奈川県では2015～2023年の主要港の月別漁獲量を収集済み ・ 静岡県では主要定置網の2001～2023年の年別漁獲量と2003～2023年の月別漁獲量を収集済み ・ 三重県では定置網の1971～2023年の年別漁獲量と2004～2023年の月別漁獲量、また、主要漁協における2012～2023年の月別漁法別漁獲量を収集済み ・ 和歌山県では2013～2023年の主要港の月別漁法別漁獲量を収集済み ・ 徳島県では2003～2023年の主要定置網の月別漁獲量とCPUEを収集済み ・ 高知県では1986～2023年のシイラまき網と、2010～2023年の定置網での漁獲量を収集済み ・ 大分県では2006～2023年の漁協ごとの月別漁法別漁獲量を収集済み ・ 宮崎県では2006～2023年の主要漁協別漁獲量を収集済み ・ 水産物流通調査の産地上場水揚量として公表されている最新年（2022年）の本種とエビスシイラを含む「しいら類」の統計値は、太平洋南区で320トン、太平洋中区で216トン（上場水揚量と漁獲量の関係については明らかでなく、現状では参考情報になる程度と判断） ・ 本種は宮崎県が単県で行っている沿岸水産資源評価の対象種に含まれており、2023年に行われた本種の資源評価では、同県が収集する大型定置網のCPUE（トン/統数）を基準
--

にした判断により、資源レベルは中位、動向は減少と評価

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：令和 5 年度資源評価調査報告書を参照 (https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/trends_2023_153.pdf)
- (2) 年齢・成長：同上
- (3) 成熟・産卵：同上
- (4) 被捕食関係：同上

(4) 備考

本種の分布・回遊特性および漁業の概要から、我が国周辺には南方海域から高水温時に一時的に来遊した個体が漁獲されている可能性が示唆される。また、ミトコンドリア DNA の NADH 脱水素酵素サブユニット 1 遺伝子 (ND1) を用いた集団遺伝学的解析では、日本周辺だけでなく、メキシコ、エクアドル、ハワイ、ニューカレドニア周辺海域を含む太平洋内で本種の地域集団は確認されていない (Díaz-Jaimes et al. 2010)。このような状況から、我が国周辺の太平洋中区と太平洋南区のみの漁獲状況に基づく資源の評価や管理方策の提言を行うことは難しいと考えられる。今後、少なくとも我が国周辺で本種が漁獲されている東シナ海や日本海等の漁獲状況を把握し、本報告書の対象海域での漁獲状況との比較を行うことや、更なる詳細な集団遺伝学的解析によって、対象海域で漁獲される本種を 1 つの系群と捉えるか否かの検討が、本種資源の評価や管理を行う上での第一歩となるであろう。

また、今後本種の資源動向の把握に向けて資源量指標値の開発も課題の一つである。本系群においては出漁隻数等の漁獲努力量の情報が限られており、指標値を検討するにあたって、各県の漁獲状況について今後さらなる情報収集が必要である。また、上記の指標値に関しては、漁業データのみでなく、調査データの活用なども視野に入れて検討していくことが必要である。

(5) 引用文献

P. Díaz-Jaimes, M. Uribe-Alcocer, A. Rocha-Olivares, F.J. García-de-León, P. Nortmoon, J.D. Durand (2010) Global phylogeography of the dolphinfish (*Coryphaena hippurus*): The influence of large effective population size and recent dispersal on the divergence of a marine pelagic cosmopolitan species. *Molecular Phylogenetics and Evolution*. 1209-1218, 57(3)